第３章　第２期事業計画　あいち森と緑づくり事業の実施状況

■第２期事業計画に対する事業実績（2019 年度～2021 年度）

分　野	事　業　名		事業計画 (2019～2028)	実　績	進捗率 (10 年間)	達成度
人工林整備	人工林整備事業（間伐）		16,000ha	3,612ha	23%	C
	次世代森林育成事業		450ha	29ha	6%	C
	少花粉ヒノキ採種園 広葉樹採種園の造成等		２棟 0.7ha	２棟 1.2ha	100%	A
里山林整備	提案型里山林整備事業		40 箇所	11 箇所	28%	B
	里山林保全活用指導者養成事業	里山林保全活用指導者養成研修	300 人	79 人	26%	B
		地域活動団体ネットワーク形成	10 回	３回	30%	A
都市緑化推進	身近な緑づくり事業		125 箇所	19 箇所	15%	C
	緑の街並み推進事業（民有地緑化）		1,100 件	418 件	38%	A
	美しい並木道再生事業		150 箇所	41 箇所	27%	B
	県民参加緑づくり事業		1,010 件	386 件	38%	A
環境活動・学習等推進	環境活動・学習推進事業		750 件	307 件	41%	A
	生態系ネットワーク形成推進事業		70 件	23 件	33%	A
普及啓発	第 70 回全国植樹祭開催理念継承事業	木の香る都市（まち）づくり事業	20 件	31 件	155%	A
		全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業：苗木のスクールステイ	－	９校	－	－
		全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業：学校等の樹木更新	－	６校	－	－
	普及啓発事業	森と緑づくり体感ツアー	－	３回 138 人	－	－

☆　達成度の考え方

ランク	進捗率	備　考
A	30%以上	計画を達成（100%×3/10 年間＝30%）
B	24%以上 30%未満	計画の概ね８割以上（30%×0.8＝24%）
C	24%未満	計画の概ね８割未満

１　人工林整備事業

１－１　人工林整備事業（間伐）

○　事業計画 16,000ha の進捗率は 23%
○　2021 年度末現在の間伐実績は 3,612ha
○　防災・減災対策のための間伐は、面積当たりの事業費が高く、進捗がやや遅れている。
○　道路沿いを防災・減災対策として行った延長は３年間で 110 ㎞

■第２期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 16,000ha に対し、３年間の間伐実績は 3,612ha です。
○　単年度の目標間伐面積 1,600ha に対する達成率は概ね 70～80%です。

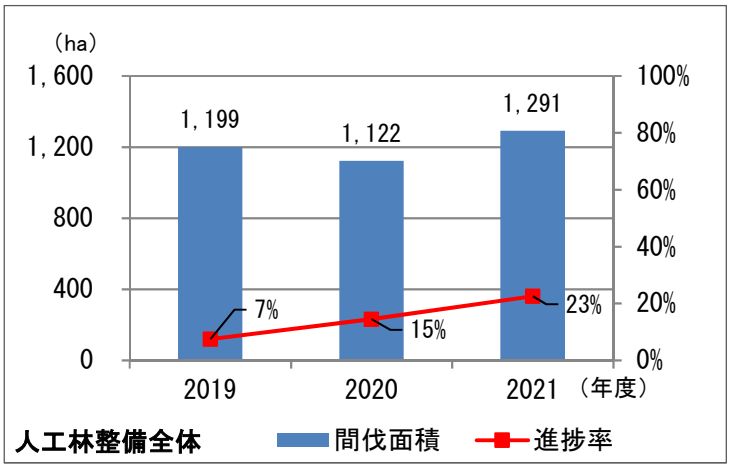


図 3-1-1　間伐面積及び事業計画の進捗率

・第２期事業計画ではライフライン確保の観点から、早急に整備が必要な道路沿い等の森林について、「防災･減災対策」として重点的に間伐を進めています。
・防災・減災対策では重機等の使用や交通規制が必要なため、面積当たりの事業費が高くなります。
・面積当たりの事業費が、第１期事業計画時の 57 万円／ha から、106 万円／ha へ増加しています。

■第２期事業計画のうち、防災・減災対策の年度別実績

○　防災・減災対策の間伐面積は 2,451ha となり、間伐面積全体の 68%を占めています。
○　道路沿いを防災・減災対策として行った延長は３年間で 110 ㎞です。

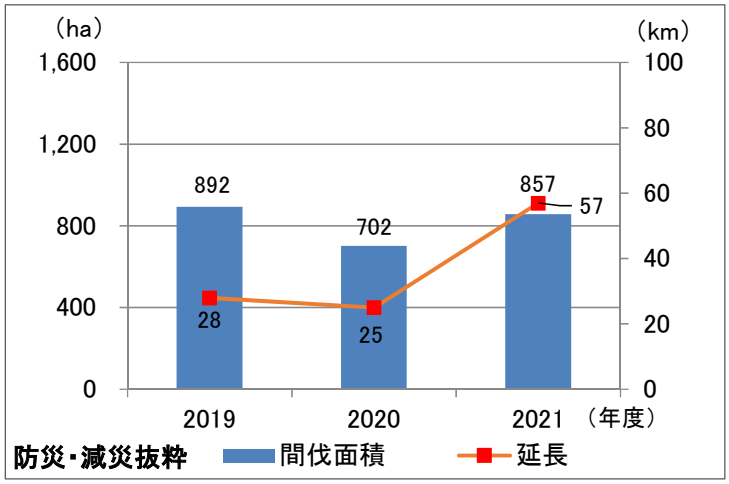
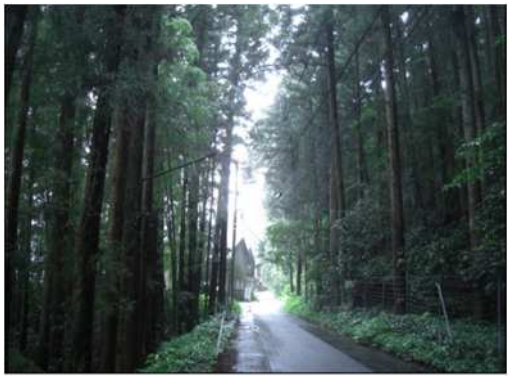


図 3-1-2　防災・減災対策の間伐面積及び延長

・道路沿いの間伐作業は、配電線に近接しており、安全かつ円滑に作業を進めることが重要です。
・県は、電気事業者と 2020 年 12 月に「あいち森と緑づくり森林整備事業に係る移設工事費に関する覚書」を取り交わしました。
・あいち森と緑づくり事業の森林整備事業では、電気事業者に配電線の保護カバーの設置・撤去をお願いするなど、連携を取りながら作業しています。

人工林整備事業（間伐：防災・減災対策）の施工状況



着　手　前

完　了　後

【実施年度】　2020 年度
【事業地】　新城市長篠ほか地内　【間伐面積】32.82ha
【樹種・林齢】　スギ・ヒノキ 40～60 年生　【伐採率】40%
【防災・減災区分】面積 5.11ha　新城市道（横川線）延長 500m
【搬出量】　329.45 ㎥［針葉樹 294.25 ㎥、広葉樹 35.20 ㎥］

○　事業地近辺に中部電力株式会社長篠発電所があります。奥三河地域へ電力を供給している基幹配電線が、市道横川線沿いに設置されています。

～　トピックス①　～　　防災・減災対策の作業方法（重機使用）

○　道路沿いで行う伐採や枝落としでは、安全かつ効率的に作業を行うために、高所作業車やクレーン等の重機を使用します。
○　道路を通行する車両の安全を確保するため、交通規制を行って作業します。

道路沿いでの効率的な伐採作業システムの例
① 人力・高所作業車
［枝払・上部伐採］
② 人力
［根伐り（伐採）］
③ 人力・クレーン
［樹木吊り下げ・移動］
④ 人力・グラップル
［玉切り・積み込み］
⑤ トラック
［木材運搬］
⑥ 安全対策
［交通誘導員の配置］

①～⑥は作業方法、
［ ］書きは作業内容を記載
※赤枠内では、作業員が伐採作業等をしています。

人工林整備事業（間伐：その他）の施工状況

施工地全景

林内近景

全天空写真

【実施年度】　2020 年度
【事業地】　岡崎市夏山町地内
【間伐面積】　11.43ha
【樹種・林齢】　スギ・ヒノキ４０～６０年生
【伐採率】　40%

○　間伐前は林内が真っ暗で、下層植生は多くありませんでしたが、強度間伐（伐採する本数で 40%）を行った結果、林内が明るくなり下草が成長してきています。

○　トラック等が入れる道路が無いこと等の理由により現場から搬出できないため、間伐材が下方に落ちて行かないよう、立木や切株等に丸太をかけながら残置しています。

～　トピックス②　～　　防災・減災対策の作業方法（人力施工）

○　道路幅員が狭い時や配電線の配置状況から、重機等が設置できない場合には、人力で樹上伐採作業を行います。

○　特に広葉樹は、枝が広範囲に広がって育っており、配電線の上に覆い被さっているため、広がった枝を樹上で短く切り落とす作業を行います。

※赤枠内では、作業員が伐採作業等をしています。

１－２　次世代森林育成事業

○　事業計画 450ha の進捗率は 6%
○　2021 年度末現在の植栽実績は 29ha
○　獣害対策として、獣害防止柵を約 12ｋｍ、単木ガードを約 2,200 本設置

■第２期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 450ha に対し、３年間の植栽面積は 29ha、下草刈面積は 8ha です。

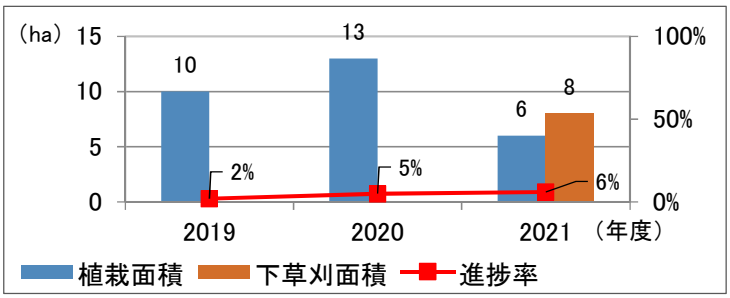


図 3-1-3　植栽面積と下草刈面積の実績、事業計画の進捗率

- シカ等による植栽木食害の不安などにより、森林所有者の皆伐再造林の意欲が低調である。
- ３年間の県内における植栽面積 74.70ha のうち、次世代森林育成事業による植栽の割合は 39%を占めています。
- 今後は、下草刈り等の保育作業が多くなると見込まれます。

■獣害対策の工法別施工実績

○　植栽地へ獣害防止柵を 11,737m、単木ガードを 2,190 本設置しました。

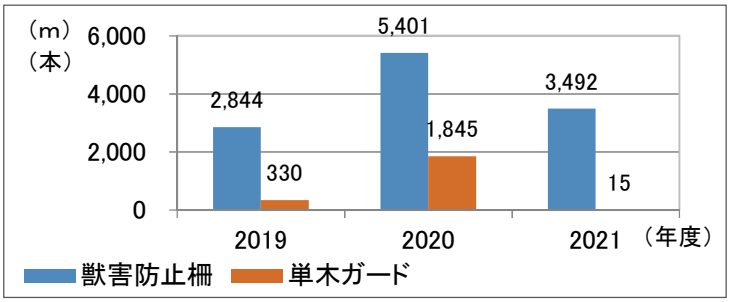


図 3-1-4　獣害対策の施工実績（獣害防止柵と単木ガード）

- 獣害防止柵が破損したために、シカ等の食害を受けた事業地に対し、2021 年度から、補植と併せて行う獣害防止柵の補修についても、補助対象としています。

次世代森林育成事業（植栽）の施工状況

【実施年度】
2020 年度

【施工地】
豊田市中当町サカ地内

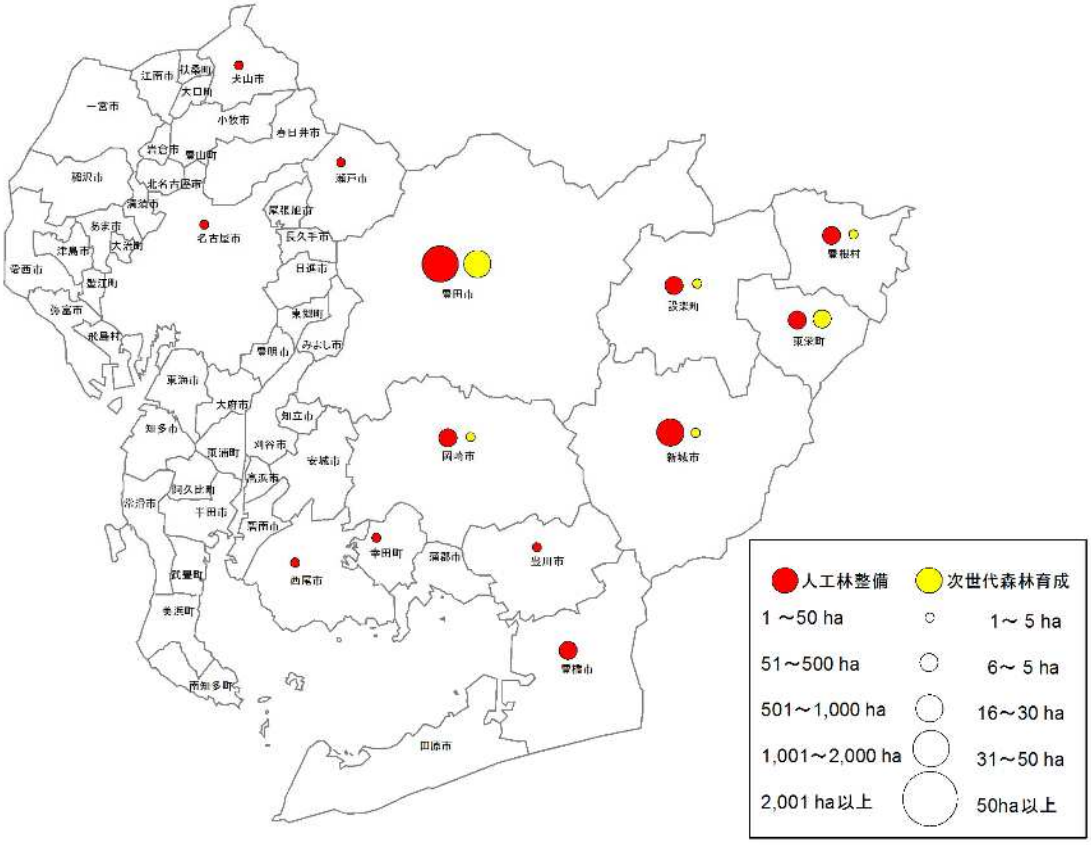
【植栽概要】
面積：1.83ha
樹種：少花粉ヒノキ
（コンテナ苗）
コナラ（普通苗）
植栽本数　：5,070 本
獣害防止柵：568m

皆伐前の森林の状況
57～96 年生のスギ・ヒノキ人工林

左写真：少花粉ヒノキ（コンテナ苗）
右写真：植栽地全景と獣害防止柵の設置状況

○事業効果
少花粉ヒノキ苗とコナラ苗を植栽したことにより、「森林の若返り」と「花粉症対策」が図られました。

■事業実施箇所（2019～2021 年度）



～　トピックス③　～　　花粉症対策苗木の安定的な供給

○　2020 年度において、森林・林業技術センター内に閉鎖型採種園を 5 棟整備しました。このうちの 2 棟で、次世代森林育成事業の補助対象樹種「少花粉ヒノキ」を母樹として育成しています。

○　閉鎖型の採種園とすることで、少花粉ヒノキ同士を確実に交配させ、効率的に種子を採種することが可能です。

○　2022 年の秋に、少花粉ヒノキの種子を少量採取しました。

閉鎖型採種園整備状況

（手前の 2 棟を次世代森林育成事業で整備）

【整 備 年 度】2020 年度
【整 備 場 所】新城市上吉田
（森林・林業技術センター内）
【樹　　種】少花粉ヒノキ
【棟　　数】２棟（母樹：192 本）

閉鎖型採種園内部の少花粉ヒノキの母樹

２　里山林整備事業
２－１　提案型里山林整備事業

○　事業計画 40 箇所の進捗率は 28%
○　2021 年度末現在の整備実績は 11 箇所
○　多くの要望に応えるため、箇所ごとの事業期間が長期化しつつある。

■第２期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 40 箇所に対し、３年間の整備実績は 11 箇所です。

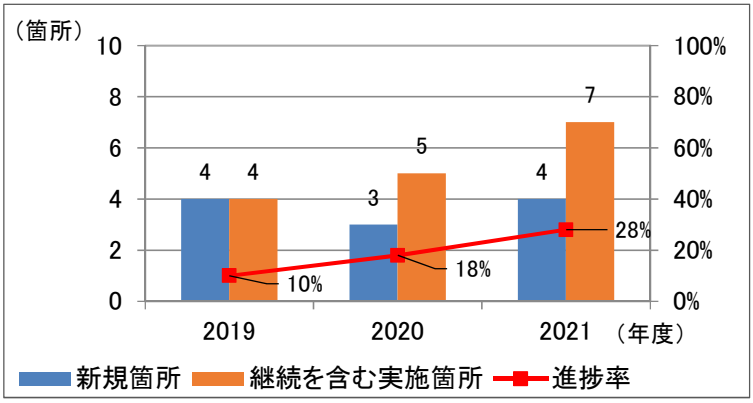
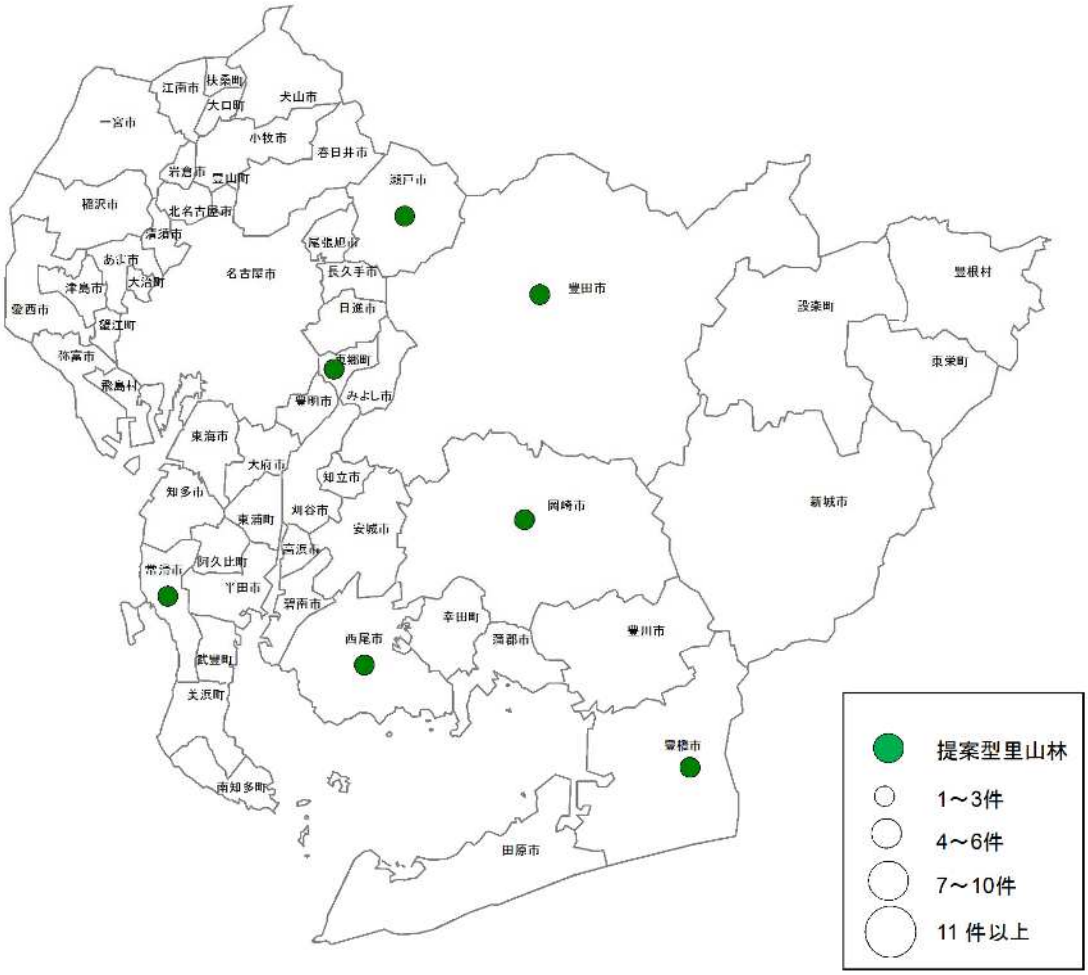


図 3-2-1　新規着手箇所と実施箇所、事業計画の進捗率

- 市町村からの要望が多く、整備実績 11 箇所のうち、計画期間が単年度計画は３箇所、２年計画は３箇所、３年以上の計画は５箇所です。
- 要望数の増加に伴って、複数年の事業期間が必要となってきています。今後は、事業期間が長期化すると予想されます。

■事業実施箇所（2019～2021 年度）



２－２　里山林保全活用指導者養成事業

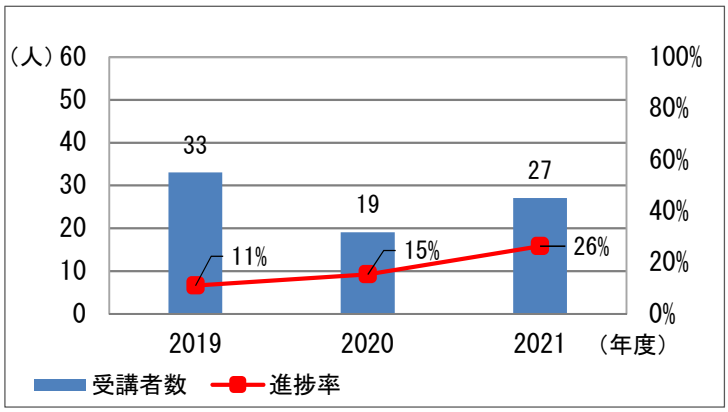
里山林保全活用指導者養成研修
○　事業計画 300 人の進捗率は 26%
○　2021 年度末現在の研修受講者は 79 人
○　地域の里山林保全活動のリーダーとなる指導者養成研修をあいち海上の森センターで実施

地域活動団体ネットワーク形成
○　事業計画 10 回の進捗率は 30%
○　森林・里山林の保全活用に関わる多様な人材・情報のネットワーク化を図る活動報告会をあいち海上の森センターで実施

里山林保全活用指導者養成研修

■第２期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 300 人に対し、３年間の研修受講者は 79 人です。



・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020 年度に１コース（森の自然教育コース）の中止を余儀なくされましたが、その他受講者数は順調に推移しています。

図 3-2-2　受講者数及び事業計画の進捗率

○　あいち海上の森センターにおいて、県民が身近な森林・里山林の保全や管理、活用に関する知識と技能を習得する「海上の森アカデミー」を開催しました。

区　分	内　容	日数 2021 年度
森の自然教育コース	森林を活用した幼児教育の手法	5
森女（もりじょ）養成コース	女性による森林の保全・整備	6
里山暮らしコース	里山における木材資源の活用	5
計		１６

地域活動団体ネットワーク形成

■第２期事業計画の年度別実績

○　あいち海上の森センターにおいて、森林・里山林の保全活用に関わるＮＰＯ法人、団体、企業等がそれぞれ行った活動を広く一般に知ってもらい、また、他団体との交流を深めるため、「ＮＰＯ・グループ活動発表ひろば」を年に１回開催し、３年間で３回実施しました。

提案型里山林整備事業実施後の地域活動団体の活動状況

（地域活動団体が 2020 年 11 月、「秋の里山を歩く会」を開催）

【実施年度】2019 年度～2021 年度
【事 業 地】豊田市桂野町　地内
【整備内容】調査委託、除間伐 1.64ha(内、竹全伐 0.46ha)、作業歩道整備 265.6m、
　　ロープ柵工 23.5m
【地域活動団体等】桂野町自治区、協力団体：水土里の会（桂野町住民を中心とした組織）

○　地域活動団体等が整備区域内において、散策路の整備や補修、竹木の除間伐や植樹活動を定期的に行っています。また、若い世代の住民が里山整備活動に取り組むことができるよう、指導する機会を設けながら後継者を育成しています。

○　更に、「里山を歩く会」や「里山を楽しむ会」などを企画・実施し、地域内外の住民に里山の魅力を伝え、里山への関心を高める取組を行っています。

○　「里山を楽しむ会」では、木製遊具の作成や椎茸の菌打ち体験などを行い、住民や子ども会が参加しています。

里山林保全活用指導者養成研修の実施状況

研修の様子（左から、森の自然教育コース、森女（もりじょ）養成コース、里山暮らしコース）

地域活動団体ネットワーク形成の実施状況

展示状況（ポスター発表）

3　都市緑化推進事業

○　事業計画 2,385 件（※）の進捗率は 36%
○　2021 年度末現在の助成実績は全体で 864 件（※）
○　事業別では、県民の緑づくりに対する理解につながる「県民参加緑づくり」や民有地緑化を推進する「緑の街並み推進事業」の進捗率が 38%と高い。

■第２期事業計画　都市緑化推進事業全体の年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 2,385 件（※）に対し、３年間の実績は 864 件（※）です。
（※：各事業の単位（１箇所及び１件）を合算）

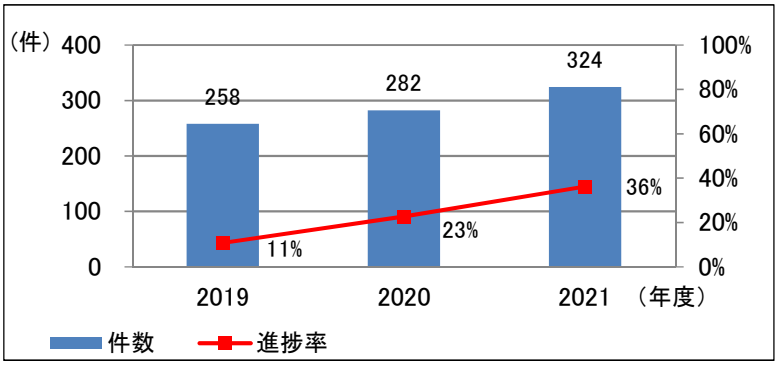


図 3-3-1　事業全体の件数（※）及び事業計画の進捗率

・件数の実績は、３ 年間で事業計画全体の 36%となっています。

～　トピックス④　～　民間企業による地域に開かれた緑地の創出

○　「緑の街並み推進事業」とは、市街化区域等の民有地の建物や敷地の緑化を進めるために、市町村が定めた緑化施設評価に基づく優良な緑化事業などを助成するものです。この事業を活用して整備された事例を紹介します。

○　稲沢市に本社を構えるアイコクアルファ株式会社では、これからも地域に密着した企業として地域と共に発展していきたいとの想いから、旧本社工場跡地(発祥の地)を『もとの自然な状態に戻して地域の皆様へお返しする』ことを決め、地域に開かれた緑地を有する「いこいの広場」の整備を行い、2021 年春にオープンしました。

○　昔の原っぱを模した芝生広場を中心とした「いこいの広場」では、失われつつある自然環境を再構築したビオトープにてホタルの幼虫を放流し、初夏には羽化したホタルの鑑賞会を行っています。

○　また、「近隣の方々には自然との触れ合いを通して、世代間のコミュニケーションを図る場として利用いただきたい」との目的から、広場内に最大 40 名の会議を行うことができる施設を設け、稲沢市社会福祉協議会を始めとする各所とも連携を図り、福祉・教育・ボランティア等の各活動の場や会議の場として、幅広く利用されており、これまでにおよそ 16,000 名の方々が来場され、ご好評を頂いています。

３－１　身近な緑づくり事業

■第２期事業計画　年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 125 箇所に対し、３年間の実績は 19 箇所です。

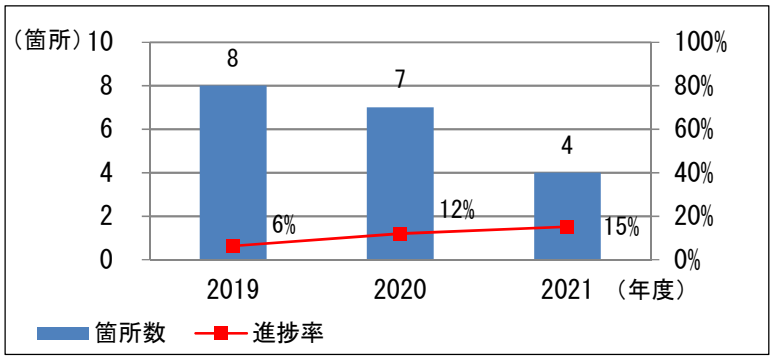


図 3-3-2　身近な緑づくり事業の箇所数及び事業計画の進捗率

・箇所数の実績は、３ 年間で事業計画全体の 15%となっています。

身近な緑づくり事業の実施状況

用地買収による緑地の保全（大府市）
放置された民有樹林について、市が用地を取得しました。今後、散策路等整備を実施、適切に保全していきます。

３－２　緑の街並み推進事業

■第２期事業計画　年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 1,100 件（民有地緑化への助成）に対し、３年間の実績は 418 件です。

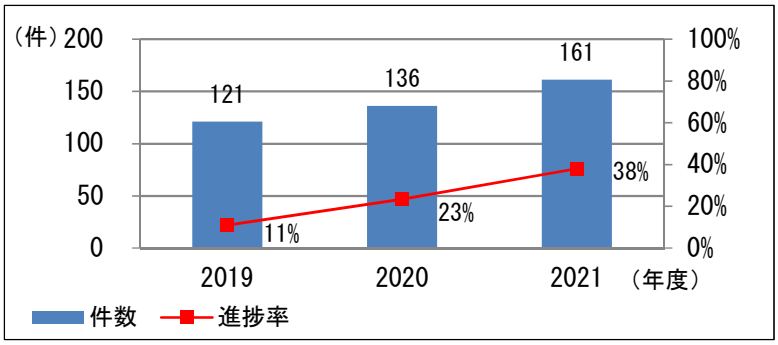


図 3-3-3　緑の街並み推進事業の件数及び事業計画の進捗率

・件数の実績は、３ 年間で事業計画全体の 38%となっています。

緑の街並み推進事業の実施状況

空地緑化（稲沢市）
企業が社有地（面積約 7,000 ㎡）に緑地やビオトープを整備し一般に開放しました。
※　P21 トピックス④参照

空地緑化（名古屋市）
運河沿いの商業施設について、高木植栽 20 本など約 540 ㎡の緑化を行いました。

３－３　美しい並木道再生事業

■第２期事業計画　年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 150 箇所に対し、３年間の実績は 41 箇所です。

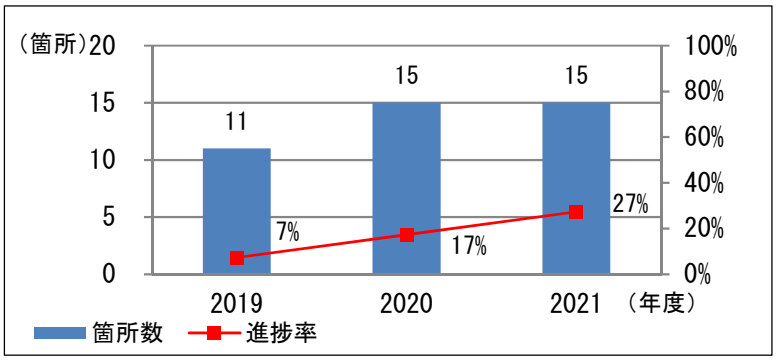


図 3-3-4　美しい並木道再生事業の箇所数及び事業計画の進捗率

・箇所数の実績は、３ 年間で事業計画全体の 27%となっています。

美しい並木道再生事業の実施状況

並木道再生（蒲郡市）
通称「マリンロード」の枯損木を植替え、観光地へ続く美しい並木道として再整備しました。

３－４　県民参加緑づくり事業

■第２期事業計画　年度別実績及び計画の進捗状況

○　事業計画 1,010 件に対し、３年間の実績は 386 件です。

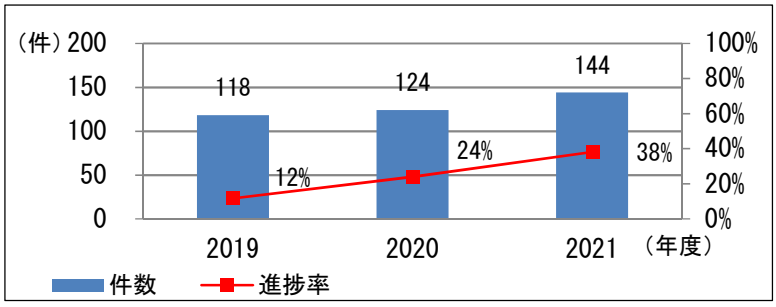


図 3-3-5　県民参加緑づくり事業の件数及び事業計画の進捗率

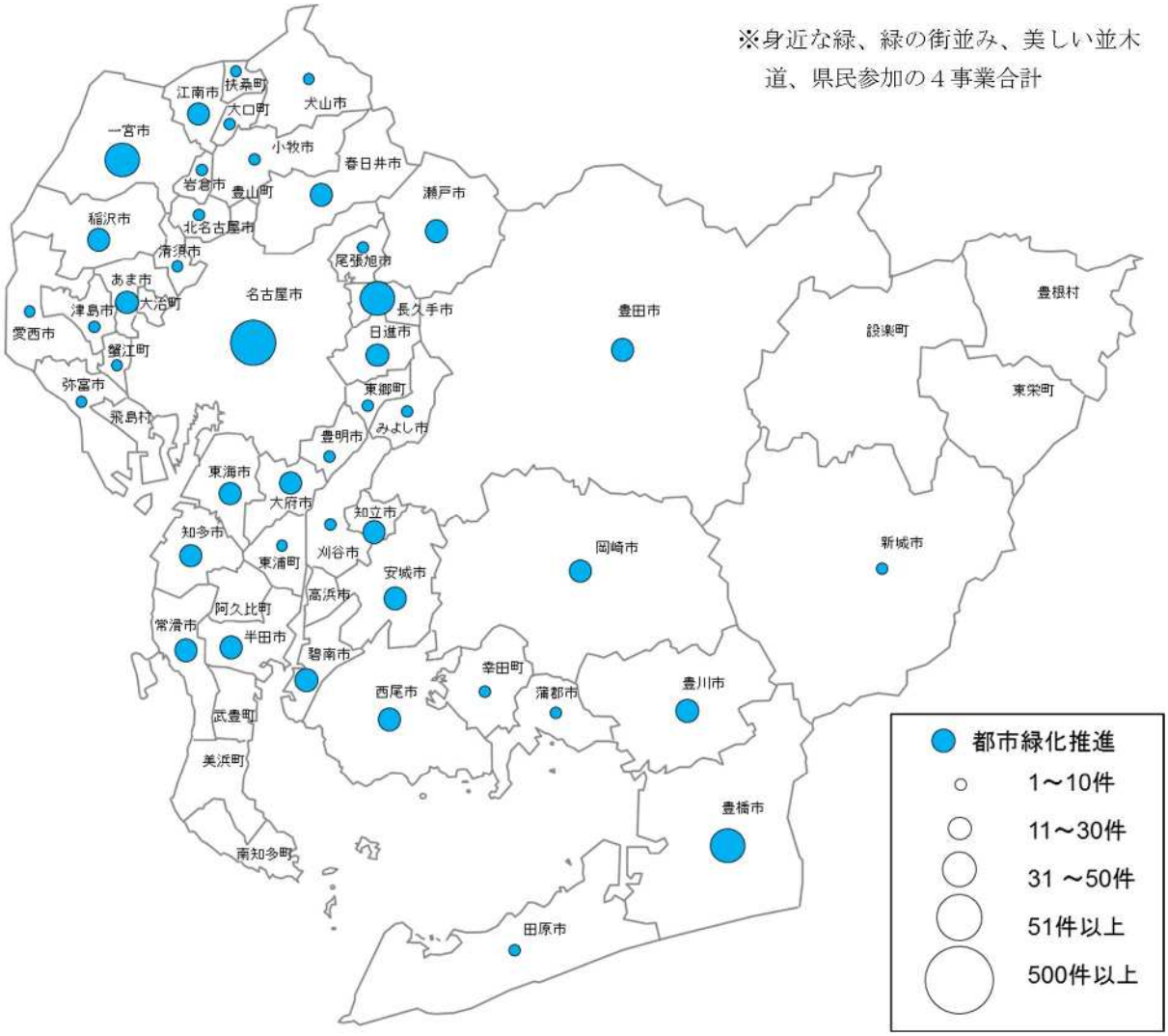
・件数の実績は、３ 年間で事業計画全体の 38%となっています。

県民参加緑づくり事業の実施状況

市民が主役の森づくり（名古屋市）
森の観察と育樹活動等を行い、市民に対し森を育む観点での普及啓発が図られました。

県民参加による施設芝生化（春日井市）
施設の魅力向上及び地域の緑化活動促進を目的に、旧小学校の施設をリノベーションした多世代交流支援施設の運動場部分において、県民（園児）参加による芝苗を植え付け、芝生化を実施しました。

■事業実施箇所（2019～2021 年度）

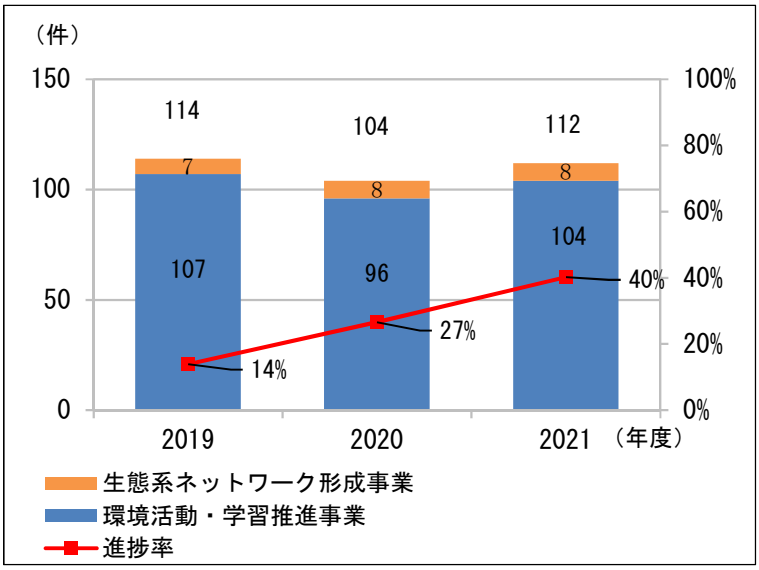


４　環境活動・学習等推進事業

○　事業計画の進捗率は 40%
○　2021 年度末現在の助成実績は 330 件
○　事業別では、NPO や市町村等による環境活動・学習への支援が 307 件、生態系ネットワーク形成への支援が 23 件

■第２期事業計画の年度別実績及び計画の進捗状況

○　10 年間での事業計画 820 件に対し、３年間の実績は 330 件です。

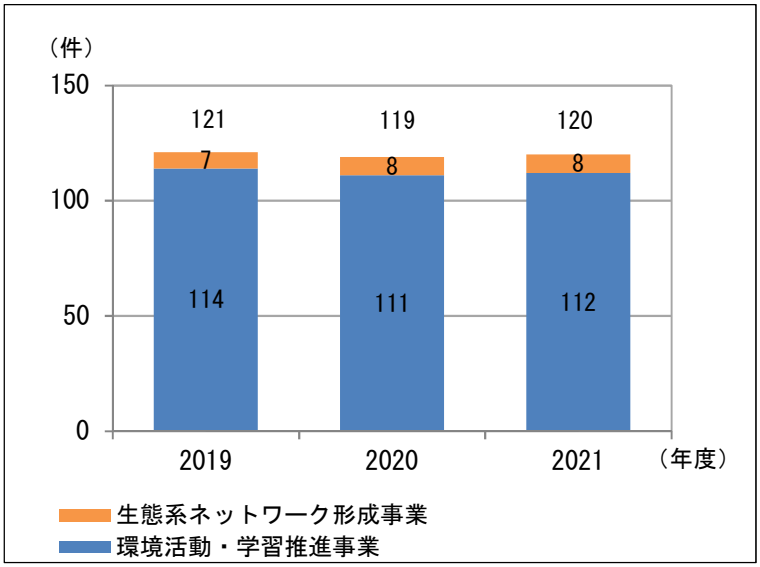


・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、事業を中止する交付団体がありましたが、単年度ごとの事業計画目標数である８２件を上回る実績を積み重ねることができました。
・10 年間での事業計画に対する進捗率も３年間で 40%を達成しています。

図 3-4-1　環境活動・学習等推進事業の交付事業数及び事業計画の進捗率

■第２期事業計画　交付金応募事業数

○ 交付金の応募事業数は、１２０件前後で推移している。



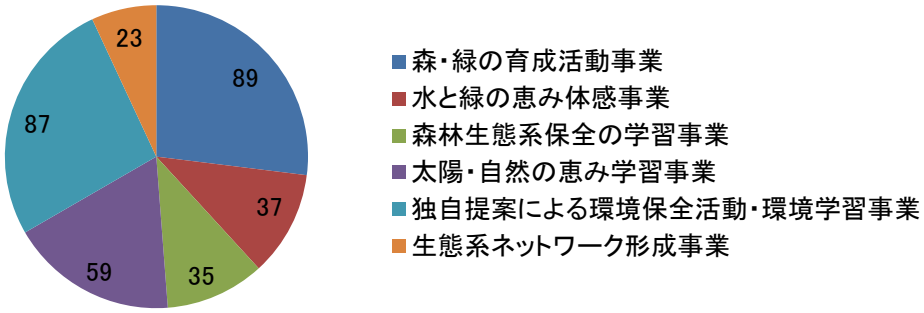
・単年度ごとの事業計画目標数である８２件を大幅に上回る応募がありました。

図 3-4-2　環境活動・学習等推進事業の応募事業数

■第２期事業計画　区分別の交付実績

○　３年間の実績を事業区分別にみると、環境活動・学習推進事業では、「森・緑の育成活動事業」が最も多く、次いで「独自提案による環境保全活動・環境学習事業」「太陽・自然の恵み学習事業」「水と緑の恵み体感事業」が多くなっており、３年間の実績は 307 件です。

「生態系ネットワーク形成事業」は、生きものの生息生育空間であるビオトープの創出や維持・向上等、地域の生態系ネットワークを形成する事業を支援するもので、３年間の実績は２３件です。

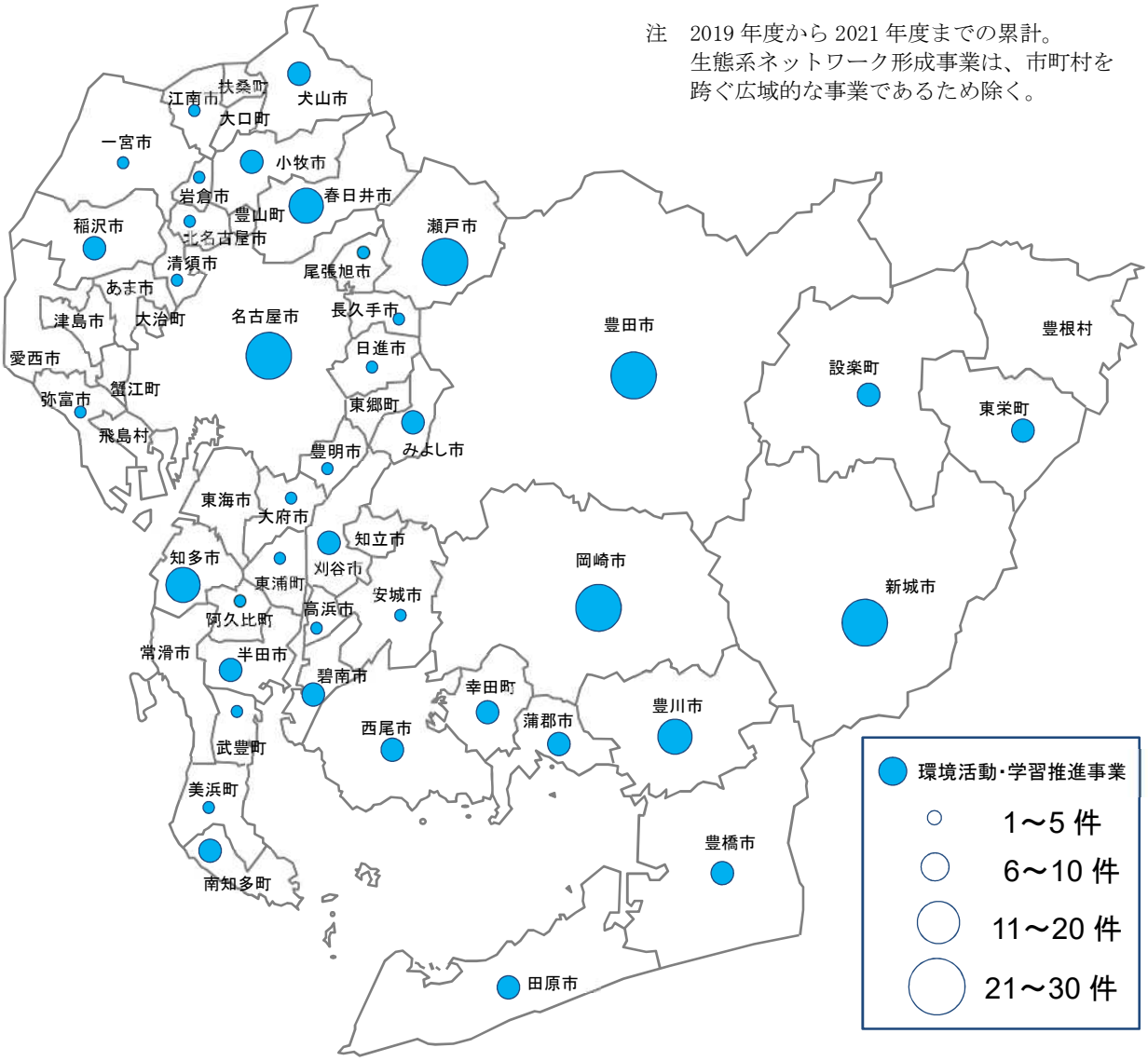


（単位：件）

図 3-4-3　事業区分別の交付実績内訳

■事業実施箇所（2019～2021 年度）

注　2019 年度から 2021 年度までの累計。
生態系ネットワーク形成事業は、市町村を跨ぐ広域的な事業であるため除く。



環境活動・学習等推進事業の実施状況

森・緑の育成活動事業

【実施場所】武豊町

○湿地の保全に向けた整備活動と勉強会を、小中学生ボランティアやその父兄、地域の方々とともに実施しました。

水と緑の恵み体感事業

【実施場所】江南市

○水辺の生物調査や昆虫観察、どんぐりの植栽等をテーマとした学習会を開催し、緑づくりの大切さを伝えることができました。

森林生態系保全の学習事業

【実施場所】豊田市

○湿地などの自然スポットを探検することで、自然の大切さを学ぶと共に、それらの活用について考えることができました。

太陽・自然の恵み学習事業

【実施場所】南知多町

○公共施設８箇所に緑のカーテンを設置し、施設利用者等に対し、地球温暖化対策についての出前授業を行いました。

独自提案による
環境保全活動・環境学習事業

【実施場所】名古屋市・瀬戸市

○持続可能な社会をつくることを目的として、SDGs に関するシンポジウムなどに取り組みました。

生態系ネットワーク形成事業の実施状況

生態系ネットワーク形成事業

【実施場所】名古屋市

○様々な主体と連携し、トウカイヨシノボリなどの絶滅危惧種の生息域外保全を行うため、ビオトープ整備を実施しました。

～　トピックス⑤　～　SDGs AICHI EXPO 2022 SDGs アクションステージ

○　2022 年１０月に開催された「SDGs AICHI EXPO 2022」では、愛知県ブース「SDGs アクションステージ」において、あいち生態系ネットワーク協議会の活動事例について、協議会構成員である６団体が発表を行いました。

○　尾張北部生態系ネットワーク協議会においては２団体が発表し、「特定非営利活動法人里山学研究所」は、犬山市街地や愛知県西部の都市部からみた『うらやま』の中で実施してきた環境学習や自然観察会などの取組を紹介し、「ふるさと自然を愛するスズサイコの会」は、度重なる開発で自然が失われてきた犬山における『スズサイコ』や『絶滅危惧種マメナシ』の保全活動について紹介しました。

○　新城設楽生態系ネットワーク協議会においては、「一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム」が新城市、北設楽郡（設楽町、東栄町、豊根村）の地域における森林生態系の保全と森林活用についての取組を紹介しました。

○　西三河生態系ネットワーク協議会においては２団体が発表し、「特定非営利活動法人日本ビオトープ協会」は生態系ネットワークの拠点づくりとして創出したビオトープを中心に、自然との共生を目指した活動について紹介し、「トヨタ自動車株式会社」は、自然と共生する工場として『トヨタテクニカルセンター下山』の取組を紹介しました。

○　知多半島生態系ネットワーク協議会においては、SDGs の取組目標 15「陸の豊かさも守ろう」の達成に向けたこれまでの取組内容について活動事例を紹介しました。

○　今後も、９つの協議会を中心に、地域の目標や取組の方向性を共有し、地域の生態系の価値について理解を広げ、生態系の保全・再生、ネットワーク化に取り組んでまいります。

SDGs アクションステージ発表の様子

５　普及啓発事業

５－１　第 70 回全国植樹祭開催理念継承事業

ア　木の香る都市（まち）づくり事業

○　事業計画２０件の進捗率は１５５％
○　2021 年度末現在の支援施設実績は３１件
○　１ 件あたりの利用者数が多い施設（PR 効果の高いモデル的な施設）への支援が年々増加

■第２期事業計画の年度別事業実績及び計画の進捗率

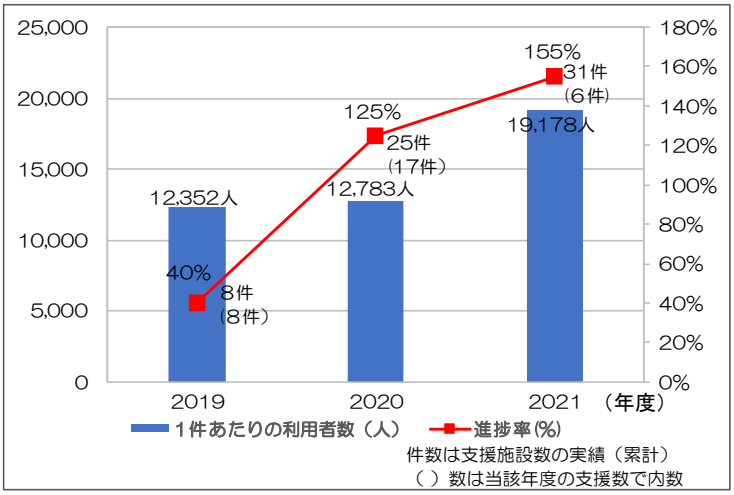


図 3-17　支援件数と事業量の進捗率及び
１件あたりの利用者数

・事業の周知に伴い、１件あたりの利用者数が多いモデル的な施設への支援が年々確実に増加しています。
・また、新しい構造や建材を採用した先進的な工法、建設コストを抑える設計工夫を採用した建築物や、デザイン性の高い木質化・木製備品の導入など意欲的で様々な木材利用の取組が増えています。

木の香る都市(まち)づくり事業の実施状況（その１）

【支援施設事例】

ささしま高架下オフィス（木造）
～東海道新幹線高架下に建設された木造２階建オフィスビル～

内　　観

外　　観

○　鉄道高架橋に影響を与えないよう建物の軽量化と、オフィスの大空間確保を両立させるため、高機能繊維と木材のハイブリッド新素材の梁を採用することで、木を現しつつ柱のない広いオープンスペースを確保し、開放的なオフィス空間を創出しています。
○　商業施設が集まるエリアにあり、施設横を走る鉄道の車窓や街路から、ガラス張り外壁を透して木構造を見ることができます。
○　主要構造材（梁）に愛知県産の木材を使用しています。

木の香る都市（まち）づくり事業の実施状況（その２）

【支援施設事例】

あおぞら学童保育クラブ（木造）

～県産木材を利用した「板倉造り※の木造学童保育所」～

内　　観

外　　観

○　県産木材を利用した木造学童保育所のモデルケースとして、本県から全国へ発信しています。

（※ 板倉造り：柱の間に厚い木板を落とし込んで壁を構成する日本古来の伝統工法）

○　心地よい肌触りの無垢材に囲まれた空間で、木育の効果も期待できる施設となっています。

～　トピックス⑥　～　木材利用の促進に関する基本計画の策定

○　木材の利用の促進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(2021 年 10 月施行)及び「愛知県木材利用促進条例」(2022 年 4 月施行)に基づき、「木材利用の促進に関する基本計画」を策定しました。

＜基本計画で揚げる主な事項と内容（抜粋）＞

【木材の利用の促進に関する主な基本的事項】

■木造・木質化の推進

・商業施設やオフィスなど民間建築物における木材利用の促進

・県の公共建築物及び公共工事では積極的に木質資源の利用を推進

・木製備品の導入の推進

都市の木造・木質化イメージ

■木造建築物に精通した技術者等の育成

■木材利用促進の日(10 月 8 日)及び木材利用促進月間(10 月)を中心に木材利用の情報発信

■県産木材を活用した新しい技術や製品の開発の推進

■建築物木材利用促進協定制度を活用し、民間分野における木材利用を促進

【木材の利用に関する目標】

県の公共建築物	原則、県産木材による木造化（※コスト・技術面で困難な場合は除く） 木造化が困難な建築物については、内装及び備品の木質化
住宅を含む 民間建築物等	木造化の促進 木造化が困難な建築物については、内装及び備品の木質化

【県産木材の利用及び供給に関する基本事項】

■県産木材の利用を優先し、県産木材以外の場合は、近接地域で生産された木材を優先する。

木の香る都市（まち）づくり事業の実施状況（その３）

【支援施設事例】

名古屋ビルディング桜館（内装木質化）
～緩やかな曲線を描く杉ルーバーで迎えるエントランス～

内　　観

外　　観

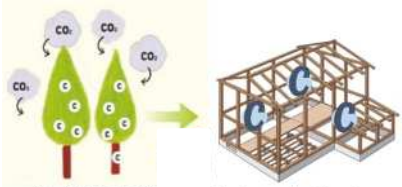
○　縦横の木材が緩やかなカーブを描く印象的なエントランスホール。オフィス街の中に木のぬくもりを感じます。

○　名古屋駅と国際センター駅の間に立地し、人通りの多い道路からエントランスの木質部分が見え、多くの人に木材の魅力が伝わるデザインとなっています。

～　トピックス⑦　～　木材利用の促進の意義について

○　愛知県では、戦後盛んに植林されたスギやヒノキの人工林の多くが利用期を迎えており、木材利用の促進は、山村の主要産業である林業・木材産業の活性化や森林整備を通して、森林の水源かん養機能等の公益的機能を発揮していくうえで重要です。

○　木材は、樹木が吸収した二酸化炭素を炭素として長期間貯蔵し、鉄やコンクリート等の資材と比べて製造時のエネルギー消費が少なく抑えられ、かつ再造林による再生が可能であるなど、地球環境への負荷が少ない資源であることから、木材を用いた建築が注目されています。



＜木造建築物は「第２の森林」＞

○　さらに、木材利用の効果として、木には人の心理や身体に優しく働きかける、あるいは学習や生産性を上げるなど、さまざまな効果が科学的に実証されています。

○　このことから、木材利用は近年関心が高まっているカーボンニュートラルや、ＳＤＧｓの17の目標のうち、７つの目標達成に貢献する取組となります。

イ　全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業

次代を担う小中学生を始めとする県民を対象に、第 70 回全国植樹祭の開催理念を継承し、森と緑づくりへの理解を深めるための取組を実施しました。

全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業の実施状況

スクールステイ苗木を育てる児童

学校の樹木から加工したベンチ

○　全国植樹祭※1で行われた「苗木のスクールステイ」の取組を継承し、小中学校で育成した苗木を県植樹祭※2の参加者に記念樹として配布しました。

○　小中学校において校内の樹木を伐倒し、ベンチや教室名札等に加工し、活用してもらうとともに、校内に苗木を植えて育てるという体験活動を実施し、森と緑づくりに対する理解を深めました。

※１　全国植樹祭は、 国土緑化運動の中心的な行事として、全国各地から緑化関係者等が参加し、毎年開催されています。本県は、２０１９年に４０年ぶり２回目となる第 70 回全国植樹祭を開催しました。

※２　県植樹祭は、緑化に対する意識の高揚を図り、みどり豊かで快適な環境づくりを推進するため、県内各市町村を開催地として、１９４８年から毎年開催しています。

～　トピックス⑧　～　苗木のスクールステイの取組

○　2019 年６月に開催した第 70 回全国植樹祭では記念植樹に使用する苗木を「苗木のスクールステイ」として、愛知県内の小中高生やみどりの少年団の皆さんに育成していただきました。

○　全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業では、次代を担う小中学生の皆さんに緑の大切さと緑づくりへの関心を高めていただくため、全国植樹祭の「苗木のスクールステイ」の取組を継承し、県植樹祭で配布する記念樹を開催地の小中学校で育成していただいています。

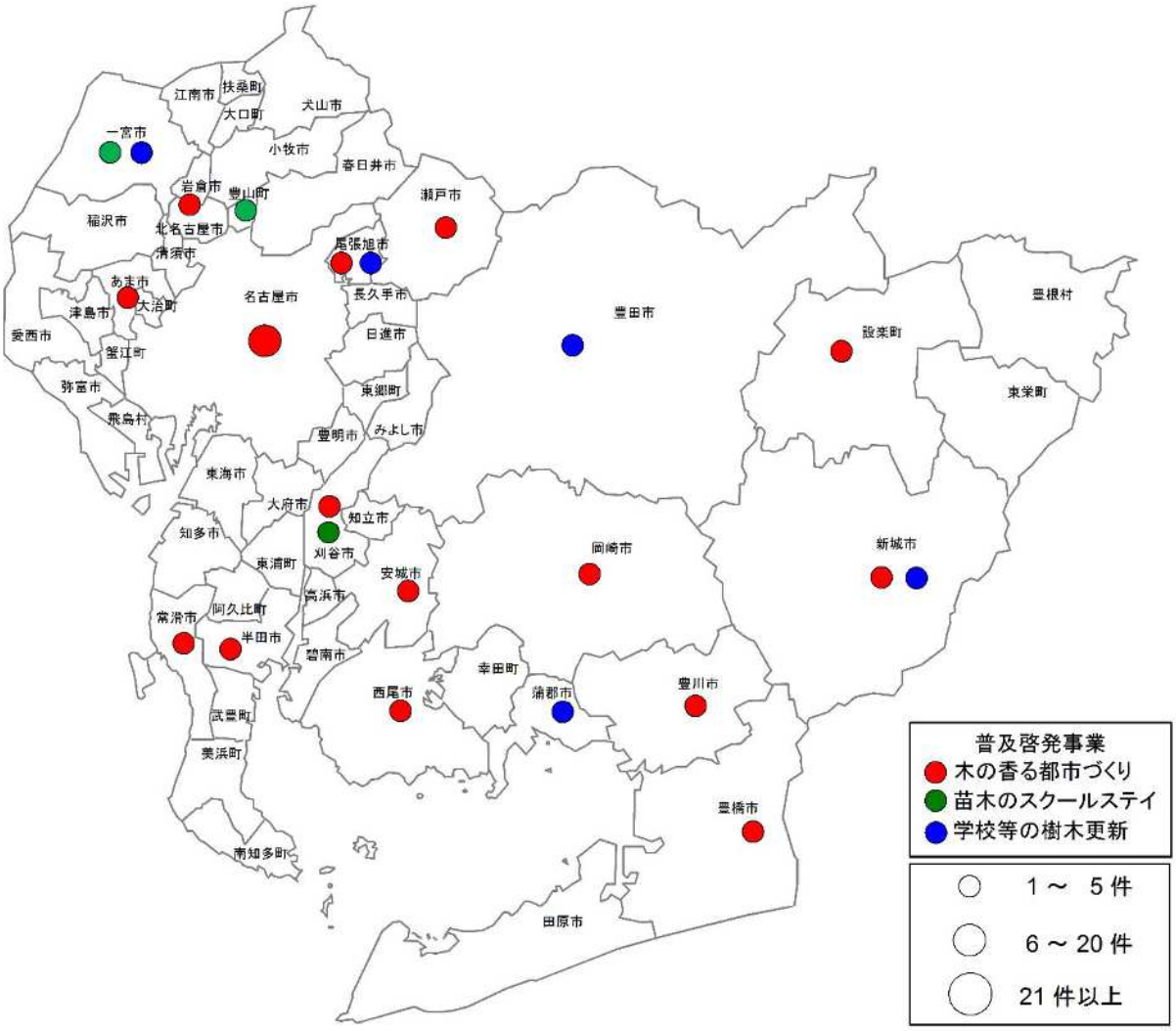
○　これまで、刈谷市、一宮市、豊山町の３市町において、小中学校９校の皆さんに花を楽しむことができるアジサイやムクゲの苗木を育成していただきました。

○　2022 年に豊山町で開催した県植樹祭では、式典のなかで、豊山町の３小学校の代表から主催者３名にスクールステイ苗木を贈呈しました。参加者全員に苗木を配布し、県内各地で緑への親しみの輪が広がりました。

○　今後も、小中学生を始めとする県民の皆さんを対象に、森と緑づくりへの理解を深めていただく取組を進めていきます。

県植樹祭でのスクールステイ苗木の贈呈

■**事業実施箇所**（2019～2021 年度）



～ トピックス⑨ ～ 森林環境譲与税での取組と役割分担

○ 2019 年３月に「森林環境税」及び「森林環境譲与税」が創設されました。森林環境税は 2024 年から徴収されますが、それに先行して 2019 年度から市町村及び都道府県に対して、森林環境譲与税が譲与されています。

○ あいち森と緑づくり事業を 2019 年度に第２期事業計画へ移行するに当たり、人材育成や木材利用に関するメニューの見直しを行い、一部メニューの廃止を 2018 年度に行いました。

○ 県内には間伐を必要とする森林が依然として多いため、県と市町村で役割分担を行い、相互に補完し合いながら森林整備を行っています。

「森林環境譲与税」の使途

市町村…間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用

県……森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用

５－２　その他普及啓発

森と緑づくりの必要性や、あいち森と緑づくり事業の取組への理解促進のため、様々な機会を通じて、普及啓発を行いました。

■森と緑づくり体感ツアー

○　森や緑の現状を県民の皆様に直接、見て、体験いただき、森と緑づくりへの理解を一層深めることを目的としたイベントを開催しました。

2019 年度の体感ツアーまでは、最大 80 名の県民を募集して大型バスに分乗し開催していました。しかし、2020 年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「体感イベント」と名称を変更して参加規模を 40 名に縮小し、参加者に現地集合・現地解散していただく形で開催しました。

2019 年度
＜体感ツアー＞
都市の緑体験コース：31 名
県営大高緑地（名古屋市緑区）
黒笹工業団地（みよし市）
森の緑体験コース：29 名
きららの森（設楽町）
【木の実クラフトの様子】

2020 年度
＜体感イベント＞
40 名
愛知県緑化センター（豊田市）
【間伐体験の様子】

2021 年度
＜体感イベント＞
38 名
県営大高緑地（名古屋市緑区）
【自然散策の様子】

■ＰＲ活動（毎年）

包括協定に基づく大型商業施設でのＰＲ

名古屋市内の大型商業施設でＰＲ活動を行っています。

あいち森と緑づくり税や事業の認知度、６つの事業（間伐・花粉症対策苗木の植栽・里山林の手入れ・都市緑化・環境学習・木材利用）の中で、最も関心が高い事業についてアンケートを行っています。

本庁舎～西庁舎間の地下通路でのパネル等の掲示

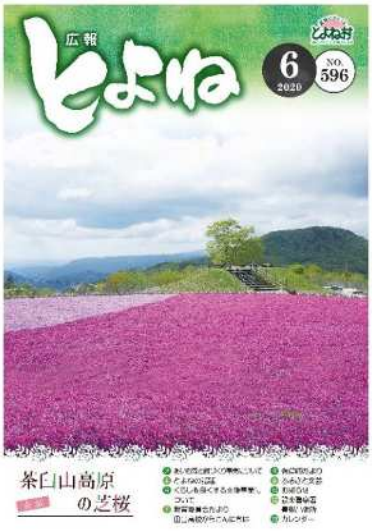
県庁地下通路でＰＲ活動を行っています。

あいち森と緑づくり事業の取組に関するパネル等を掲示しています。

■新聞でのＰＲ（『広報あいち』から関係部分を抜粋）

2019 年 6 月号

■マスメディアＰＲ（その１）【『市町村広報誌』から関係部分を抜粋】



広報とよね（2020 年６月号）であいち森と緑づくり事業が紹介されました。

■マスメディアＰＲ（その２）【ケーブルテレビ『ティーズ』から関係部分を抜粋】

豊橋市・新城市・田原市のコミュニティチャンネル「ティーズチャンネル」の【いいじゃん新城】で、2020 年 10 月 28 日～11 月４日に放映されました。※現在も閲覧可能です。
http://www.tees.ne.jp/tees/iijanshinshiro/iijanshinshiro_00530.html

■その他の取組

○県政お届け講座での普及活動

広報広聴課の県政お届け講座に「あいち森と緑づくり税を活用した取組　～山から街まで緑豊かな愛知をめざして～」を登録しています。

近年は、大学の地方財政や租税法の講義の一環として申し込みがあります。

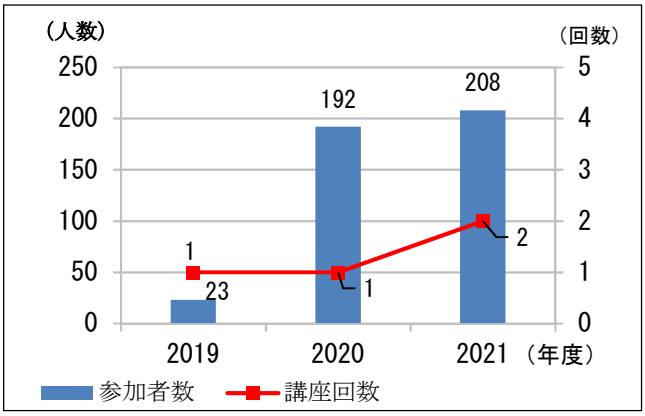


図 3-5-3　お届け講座の開催回数と参加者数

大学での県政お届け講座の講義状況

県政お届け講座を受講した学生の感想

○　森は本来所有者が管理すべきだが、自然は共通の財産と捉え、税によって整備するのは個人的には良いと思った。

○　使い道が曖昧な税金より使い道の明確な「あいち森と緑づくり税」は、税を払う人々の理解も深まるだろうし、自分も協力したいと思う。

○　税や事業の周知が不十分だと思う。教育機関での講義や授業を行い、次代を担う若者の理解を深めることが大切だと思う。

○　森林学習プログラム（伐採体験やイベントへ等）への参加が、大学の単位取得に繋がるよう、産官学の連携を期待する。

～　トピックス⑩　～　　時代が求めるPR手法とイベント

○　情報発信の手法は、以前と比べると大きく様変わりをしています。広報誌やチラシなどの紙媒体から、パソコンやスマホを駆使したSNSに変化しています。今後、普及啓発を進めていく際の発信手法やイベントで体験したいことを大学生へ聞き取りしました。

世代別に情報発信を行う際の効果的な方法

順位	30歳未満	30歳以上
1位	Twitter	市町村広報誌
2位	Instagram	県・市町村ＨＰ
3位	YouTube	チラシ(公的機関)
4位	市町村広報誌	Facebook

参加してみたいイベントは？

順位	体験したい内容
1位	実際に木を植える体験がしたい
2位	自然の森の中を色々散策したい
3位	木の実や枝などを使って工作したい
4位	自分の手で実際に木を伐り倒したい

※県政お届け講座　受講学生アンケート結果

○あいち森と緑づくり基金への寄附に対する式典

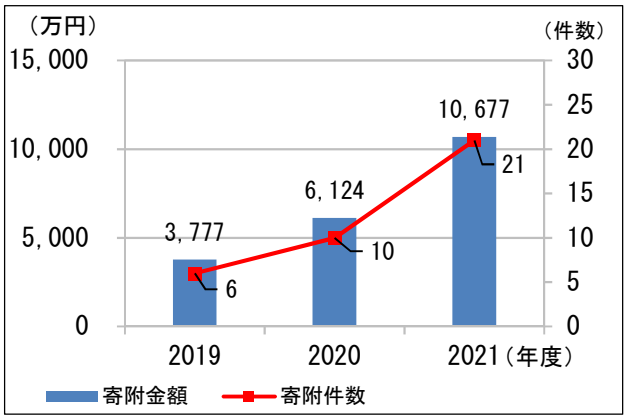


図 3-5-4　基金への寄附額と寄附件数

法人や個人の皆様から「あいち森と緑づくり基金」へ寄附をいただいています。

第２期では、第１期に比べて寄附件数が増加傾向にあります。

これは、2020 年７月１日からスタートした「レジ袋有料化」に伴い、収益の一部を寄附していただく法人が、2020 年度は２件、2021 年度は７件と、増加傾向にあることが要因となっています。

贈呈式での寄附者（左）と知事（右）

寄附覚書締結式での寄附申出者と知事（覚書を持つ２人）

○あいち森と緑づくり功労者への感謝状の贈呈

あいち森と緑づくり森林整備事業の推進に際して、自発的に森林整備活動に取り組んでいる地域や団体に対して、知事から感謝状を贈呈しています。人工林整備では間伐の団地化を推進した地域を、里山林整備では長期に渡って自主的な活動をされている団体に表彰しています。

これまでに表彰されている団体は、資料編（P 資-2-17 参照）に記載しています。

２０１９年度に功労者表彰を
受けた活動団体の皆さん

２０２０年度に功労者表彰を
受けた方々（右側２人）

～　トピックス⑪　～　　SNS を使った情報発信

あいちの森と緑のマスコットキャラクター　「森ずきんちゃん」

第 70 回全国植樹祭あいち 2019 マスコットキャラクターであった「森ずきんちゃん」が２０２０年３月 18 日に愛知県へ寄贈されました。

２０２０年度から「あいちの森と緑のマスコットキャラクター」として、愛知県内の以下の取組や活動を Facebook で情報発信しています。

(1)　第 70 回全国植樹祭あいち 2019 の理念継承に係る取組
(2)　森林・林業全般に係る取組
(3)　あいち森と緑づくりに係る税及び基金や事業に関わる取組
(4)　前(1)～(3)の他、森と緑づくりに関わるイベント情報等

https://www.facebook.com/syokujusai.aichi2019/

2021 年５月に掲載された「ドローン見学会」の情報

森ずきんちゃん（あいちの森とみどり）
作成者: 森と みどり · 2021年5月26日 ·

はーい。森ずきんちゃんです。

５月２０日に豊根村の山へドローンの見学会に行ってきたよ。
急な斜面に植える木の苗を運ぶのに、ドローンを使って高い山まで運ぶとどれだけ楽になるか試してみたんだって。
ドローンはすごく大きくて、重い荷物も運べてすごかったな。
途中で雨が降ってきたけど、森林組合の人たちはこれから苗を植えると言っていたので【頑張ってね！】と応援してきました。
以上、もっともっと山の作業が楽になって、林業が盛んになることを願う森ずきんちゃんでした。　　バイバ～～イ(@^^)/~~~

大きなドローンが
重い苗木を力強く運んでいたよ。

こんな高い山まで、
あっという間に運べたよ。